

平成 27 年度事業計画

1. はじめに

昨年度の入込数は、上期の好調から一転 7 月以降の減速により相殺され、若干の減少となった。これらの要因は消費税増税、ガソリン価格の高騰等経済情勢に大きく左右される結果であった。

平成 27 年度の見通しは、国内旅行人数は前年比 1% 程度の増加で消費全般は節約ムードが継続するものと見られている。本年の GW は桜の開花予想は 4 月 25 日頃と前年より 1 日～3 日早い予想がなされているが、後半の 5 連休に入出の集中が見込まれる。また 9 月のシルバーウィークは 6 年ぶりに 19 日(土)を含めると 23 日まで 5 連休となる。本年 3 月の北陸新幹線開通は本地域にとり関東圏からの送客に懸念材料もあるが、NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」の吉田松陰などの全国放送による幕末効果も期待される。

こうした動向を踏まえ、当館にとっては、春早々「開陽丸進水式 150 年」を記念した特別展を開催しながら宣伝、誘致を図るとともに、女子トイレの改修を連休前に実施し、混雑緩和と快適性の向上に努めてまいります。

加えて、本年は新幹線開業、当館オープン 25 周年の節目の年であり、入館者 100 万人達成も GW 期間中と見込まれ、改めて開陽丸の持つ魅力を分かり易く伝えることが重要であり、本館の機能の充実にガイド職員等の有効活用等を図りながら地域資源と連携し総合的な情報発信をしてまいります。

2. 事業の概要

(1) 経営方針

① 入館者対策について

入館者の入込見込みは下記の背景を踏まえ前年同様 2 万人と見込むこととする。

< 対策 >

【入館者対策】

< 大人団体 >

- ・例年のウィークポイントは①滞在時間が短いこと、②オプショナルツアーガ 主流となっており江差観光の大きな課題となっている。
- ・新幹線開業にあわせ 3 月から 10 月末までの開館期間の増加。

< 子供団体 - 修学・研修旅行 >

- ・宿泊研修の確保等。

関係する中学校訪問を継続していくこととする。

<大人一般>

- ・適時に割引など集客の容易性を追求しながら増加に向けた周知を図っていくこととする。
- ・個人客にも定時の無料のガイド説明の拡充。1日2回程度。

【魅力創出】

- ・「～再発見開陽丸～」(継続)

展示資料等の分かり易い解説、イメージ絵画等の展示を充実する。

【パブリシティの活用】

- ・写真資料、映像資料の無料提供(雑誌社・新聞・テレビ)、取材対応

【割引制度の拡充】

- ・関連施設等の拡充(継続)
- ・町内宿泊者の割引券交付<1割引>継続
- ・J A F、福利厚生クラブ等の割引<1割引>継続
- ・「道民家庭の日、どさんこ子育て特典制度」<1割引>継続
- ・北海道学検定合格者割引<1割引>継続

②海の駅の活用について

いつでも気軽に憩うことのできる場所として、「海の駅」機能の充実を図る。

- ・売店については、「ぷらっと江差」と連携し販売品の拡充に努めます。

③運営管理の効率化について

- ・冬期間の休館と団体予約によるスムーズな入館対応
- ・鍋まつり開館(日曜日午前中開館・なべ祭り会場との連動)と3月の開館の試行を継続します。

④開陽丸子孫の会との連携協力について

開陽丸子孫の会は平成7年に設立され、会員数90名を超える団体に発展しております。子孫に残された歴史の発掘により新たな開陽丸の魅力創出と全国への情報発信は重要となっており、今後も関係者との交流、連携を図ってまいります。

(2)青少年研修事業等の推進について

①春と夏の研修事業

- ・事業名 「開陽丸をもっと知ろう」(継続)
- ・対象 小中学生
- ・実施時期 GWと夏休み期間
- ・内容 クイズと記念品

②通年研修事業

「～再発見開陽丸～」(再掲)

- ・「開陽丸進水式 150 年」特別展の開催(別添)

(3) マリーナ指定管理業務

- ① 江差港マリーナ指定管理業務の継続
- ② ヨット競技の各種大会への連携協力

(4) 開陽丸友の会との連携

- (ア) 21世紀新聞のホームページ活用
- (イ) 研修会開催及び支援
- (ウ) 友の会活動の連携協力

(5) 開陽丸関係資料の収集と整備

- ・開陽丸関係図書の購入保管に努める。
- ・道南ブロック博物館施設等連絡協議会との連携

(6) その他

<施設改修等>

施設の劣化に伴う緊急修繕の実施

<開館 25 周年関連行事>

- ・入館者 100 万人達成(前回平成 18 年 8 月 1 日 80 万人達成)
- ・「開陽丸進水式 150 年」特別展の開催(再掲)
- ・開陽丸友の会との連携行事(語る会)の検討